

2021年12月23日

報道関係者各位

欧州製薬団体連合会 (EFPIA) Japan

「血友病におけるライフスタイル・新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート」 調査結果の公表

5割以上の患者さんが過去5年以内に治療薬を変更、活動性の向上に寄与 8割以上の成人患者さんに加齢に対する不安

欧州製薬団体連合会 (EFPIA) Japan は、血友病患者さんを対象に行った「血友病におけるライフスタイル・新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート」の調査結果を公表したことをお知らせします。

(efpia.jp/bloodproducts_work/)

血友病は、血液が凝固するために必要な血液中のたんぱく質である血液凝固因子の不足により、止血に時間がかかる疾患です。¹ 治療薬の進化や定期補充療法の普及などにより、多くの患者さんが健常者とほとんど変わらない生活を送れるようになったものの、出血のリスクから活動性に制限を感じる患者さんや、関節内出血など関節の問題をかかえる患者さんもいます。¹ 血友病は主に遺伝により生じる疾患ですが、約30%は家族歴がなく、遺伝子の突然変異に起因するといわれています。¹ 一般的には生涯を通じて治療薬の投与が必要となり、定期的に治療薬を投与する患者さんの多くは自己注射を行っています。近年では、投与間隔の延長のほか、投与方法も静脈注射のみならず皮下注射が可能な治療薬も発売されるなど、血友病治療にイノベーションがもたらされています。こうした現状の中で、血友病患者さんの活動性に関する意向、加齢にともなう懸念、さらには新型コロナウイルス感染症の影響を明らかにすることを目的として本調査は実施されました。

本調査は、EFPIA Japan 血液製剤部会が企画し、その実施を株式会社インテージヘルスケアに委託し、調査への協力を承諾した医療関係者を通じて血友病 A および血友病 B の患者さん、またはその保護者に調査票を手渡し、回答が記入された調査票を郵送により回収した後に解析を行いました。患者さんの同意を得て調査結果としてとりまとめた有効回収数は92でした。

本調査の結果、5割以上の患者さんが過去5年以内に治療薬を変更していることが明らかになり、また、成人患者さんの14%が治療薬の変更により活動性が向上したと回答しました。このことから、治療薬のイノベーションが新たな治療薬選択の機会を提供し、活動性向上に寄与しているケースを確認することができました。患者さんの活動性の変化に影響を与える要因としては、就学や就労などの環境変化が最も多く、今後の活動性意向では、8割以上の成人患者さんが「活動性を上げたい」と回答しました。

¹ World Federation of Hemophilia. Accessed in October 2021.

<https://elearning.wfh.org/elearning-centres/introduction-to-hemophilia/>



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

また、治療の向上により、血友病患者さんの寿命が伸びる中、成人患者さんの83%が加齢に対する不安をかかえていることが明らかになりました。加齢にともない問題となる可能性があり不安に思う事柄としては「関節が動かしにくくなること」と回答した患者さんが最も多く、加齢にともない知りたい内容としても最多であったことから、血友病治療における関節ケアと関連する情報提供の重要性が示唆されました。

新型コロナウイルス感染症の影響については、通院時の公共交通機関や医療機関の利用による感染リスクの不安が多くあげられました。また、オンライン診療を希望する成人患者さんは36%いる一方、実際にオンライン診療を経験した患者さんはわずか4%でした。血友病治療では定期的な通院を要すること、また、多くの患者さんが関節に関する問題をかかえていることから、オンライン診療の活用や併用が患者さんのベネフィットにつながる可能性が考えられます。

EFPIA Japan では、バイエル薬品株式会社、中外製薬株式会社、CSL ベーリング株式会社、ノボ ノルディス クファーマ株式会社、サノフィ株式会社の5社（アルファベット順）が日本において血友病治療薬を提供しており、その供給は日本市場の約7割²を占めています。血友病領域へのコミットメントを継続し、患者さんのアンメットニーズに対応すべく、血友病治療のさらなるイノベーションを目指すとともに、本調査結果を参考として、患者さんのアクティブライフや加齢にともなう不安軽減に寄与する取り組みを推進してまいります。

血友病について

血友病は、血液が凝固するために必要な血液中のたんぱく質である血液凝固因子の不足により、止血に時間がかかる疾患です。¹出生1万人に対して1人の割合で血友病に罹患すると推定されています。¹血友病は遺伝性の疾患ですが、約30%は家族歴がなく、遺伝子の突然変異に起因するといわれています。¹血友病には2種類あり、血友病Aは凝固因子の第VIII因子、血友病Bは第IX因子の欠乏あるいは機能低下が原因となります。¹日本には、5,410人の血友病A患者さん、1,186人の血友病B患者さんがいます。³

EFPIA Japan 血液製剤部会

EFPIA Japan は日本で事業展開している欧州の研究開発型製薬企業を代表する団体です。血液製剤部会は、医療上必要不可欠な血漿分画製剤と、世界の最先端技術による血液関連遺伝子組換え製剤が、将来にわたって安定的に供給される体制の構築と、患者さんのよりよい生活への貢献を目指して、行政当局や患者団体との対話を進めています。

² エンサイス株式会社の医薬品販売データ（2020年1月～12月実績）から、血友病A、血友病B、血友病インヒビターの治療薬全体の売上を合計して算出した。

³ 公益財団法人エイズ予防財団、厚生労働省委託事業 血液凝固異常症全国調査 令和元年報告書、Accessed in October 2021.

https://api-net.jfap.or.jp/image/data/blood/r01_research/r01_research.pdf



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

欧州製薬団体連合会（EFPIA） Japan について (<http://efpia.jp/>)

2002年4月に設立されたEFPIA Japanには、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業21社が加盟しています。2020年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約23%を占めています。EFPIA Japanの使命は、“革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献する”ことです。EFPIA Japanは日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。

欧州製薬団体連合会（EFPIA, European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations） について (<http://www.efpia.eu>)

ベルギーの首都ブリュッセルに本部を置くEFPIAは、欧州でビジネスを展開する製薬産業界を代表する団体です。欧州各国の36の製薬業界団体や欧州で展開する39の大手製薬企業の会員を通して、世界の人々の健康と生活の質（QOL）を改善する新たな治療薬を研究開発し、患者に届けることにコミットしている欧州企業の声を代弁しています。

お問い合わせ先：

木戸口結子 EFPIA Japan 政策提言委員会

〒100-8268 東京都千代田区丸の内 1-6-5

バイエルホールディング株式会社

Tel: 03-6266-7757

Email: yuko.kidoguchi@bayer.com

EFPIA Japan

ThinkPark Tower, 2-1-1, Osaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-6017, Japan

Tel: +81-3- 6417-2032 Fax: +81-3- 6685-4870